

経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 留萌市

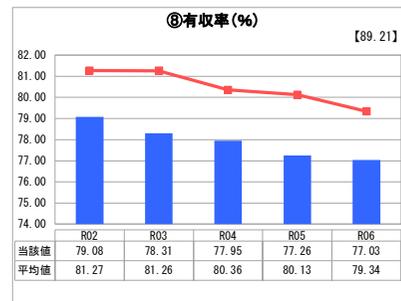
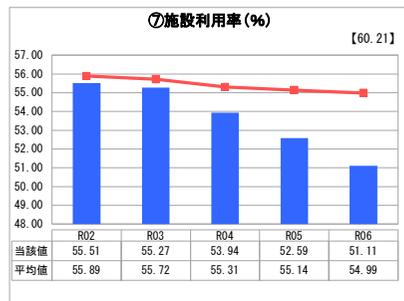
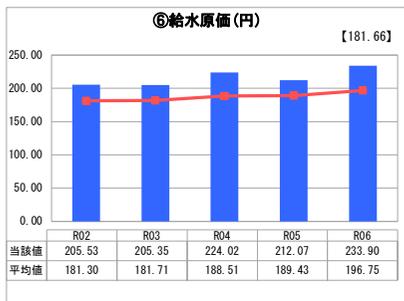
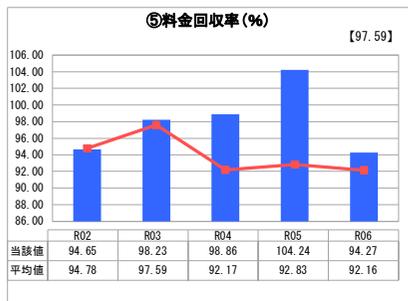
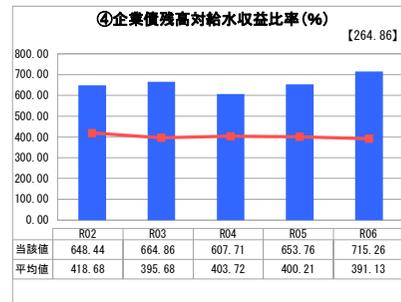
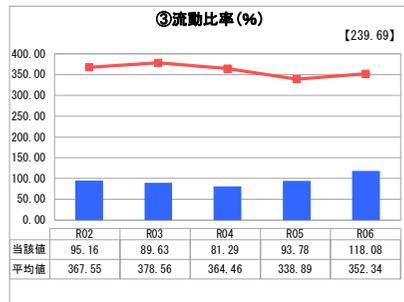
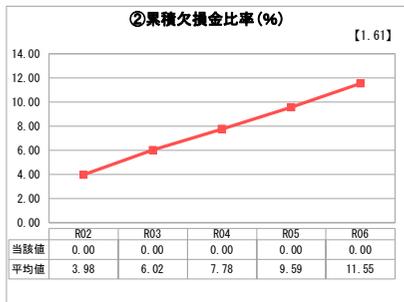
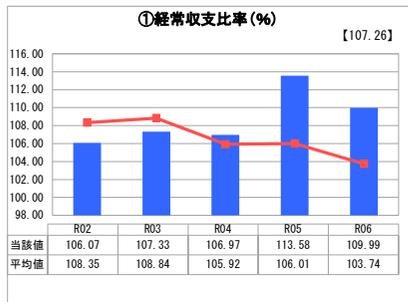
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ² 当たり家庭料金(円)	
-	45.27	99.31	4,647	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,169	297.81	61.01
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,815	17.98	990.82

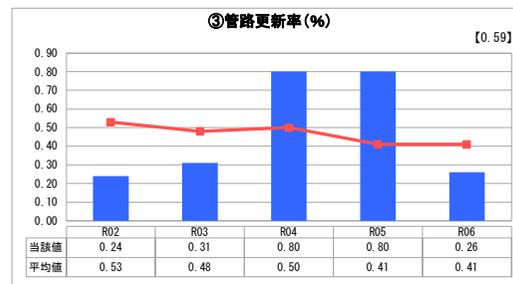
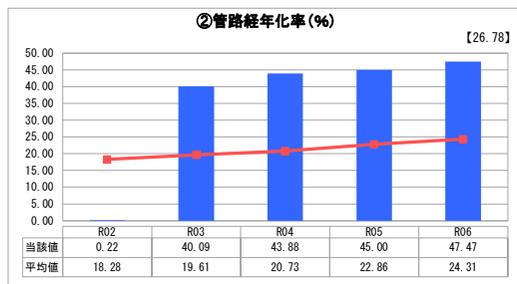
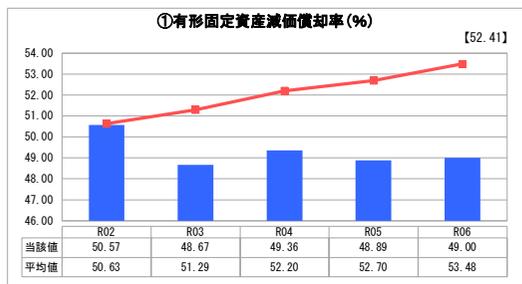
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似団体平均を上回っており累積欠損金も発生していない。
流動比率は類似団体に比べ低いが、建設改良費等に充てられた企業債によるものであり経営の健全性は維持されている。
企業債残高対給水収益比率は類似団体より高いが投資事業の大半を企業債で賄っているためであり、今後も投資に伴う企業債の借入れが必要となるが、経営戦略に基づく計画的な投資を行い起債残高を減少させる。

料金回収率は、類似団体より高い水準ではあるが、100%に達していない状況である。ただし、一般会計繰入金を充てる事業に係る経費負担分を経常費用から除くと料金回収率は100%を超えている。

2. 老朽化の状況について

近年は施設等の大型投資事業が続いているため、全体の帳簿原価増加(分母の増加)により減価償却率は落ち着いている。しかし、機械・電気設備など耐用年数を超過している資産も多数あるため、計画的な更新が必要である。
管網については施設等の投資事業が続いたため、更新を休止しており老朽化が進んでいる。大型の投資事業が落ち着くため、今後、漏水調査を行い更新箇所の優先順位を決めて順次管網整備事業を再開し、②管路経年化率③管路更新率を上げていく。

全体総括

令和4年度の水道料金改定(10%増)により一時的に収入が増加したが、人口減少や企業などの使用水量減少が重なり、経営戦略で想定したものより早いペースで料金収入が落ち込んでいる。
加えて、人件費上昇や物価高騰により、料金改定の効果が打ち消される状況である。
このように様々な要因で水道事業運営は厳しい状況にあるため経営戦略(収支計画・投資計画)を見直し、料金改定も視野に入れた改善を進めていく。

2. ②管路経年化率
R02 47.00%(決算統計調査の数値無記入による)